

～運輸と観光で九州の元気を創ります～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けいたしておりますが、年初は1月4日（月）に九州運輸局長をはじめとする幹部の「年頭の辞」を号外として配信予定です。

通常の次回発行日は平成28年1月14日（木）です。

今年一年間のご購読、誠にありがとうございました。

来年も皆様にとって良いお年でありますように、編集部一同心よりお祈り申し上げます。

来年も九州運輸局メールマガジンのご愛読をよろしくお願いいたします。

◆ 目次

1 現場レポート

- ・「年末年始の輸送等に関する安全総点検」実施中～鉄道・自動車・海上交通の全ての輸送モードで自主点検の徹底を～
- ・九州初「公共交通事故被害者等支援フォーラム」開催！
- ・「福岡モーターショー2015」開催！～クルマとあけよう 未来の扉～
- ・効果的な安全確保の取組に向けて～北九州・下関地区運航安全管理研修会などを開催～
- ・海上自衛隊下関基地隊で出前講座を実施！～内航船員の確保に向けて～
- ・日本の海を守ります「ポートステートコントロール」～「膨脹式救命いかだ技術検討会議」を開催しました！～

2 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

1 現場レポート

◆「年末年始の輸送等に関する安全総点検」実施中

～鉄道・自動車・海上交通の全ての輸送モードで自主点検の徹底を～

輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生すると大きな被害となることが予想されます。そのため、陸・海・空の全輸送モードにおいて昭和42年度から「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を実施し、安全確保及び事故防止の徹底を図っています。

今年も12月10日から翌年1月10日までの間実施し、輸送機関等において経営トップを含む幹部の強いリーダーシップの下で「安全確保及び事故防止の徹底」「安全意識の向上」「テロ防止対策の総点検」「新型インフルエンザ対策の徹底」などの自主点検が行われます。

期間中、九州運輸局でも12社の鉄・軌道事業者、18社の自動車関係事業者、73社（123隻）の船舶事業者及び2社のトラックターミナルに対し立入を実施し、自主点検が適切に行われているかを点検します。

安全総点検初日には、九州運輸局幹部職員を指揮者とする点検班が九州及び山口県

西部の各地の鉄道・自動車・船舶に対し立入点検を実施し、輸送機関の安全性の向上と関係者の安全意識の高揚を図りました。いずれの事業者も適切に自主点検を実施していましたが、引き続き緊張感をもって輸送の安全確保に努めていただきたいところです。

各地での立入点検の様子は次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_1.pdf

(総務部 安全防災・危機管理調整官、各運輸支局、各海事事務所)

◆九州初「公共交通事故被害者等支援フォーラム」開催！

九州運輸局では、12月15日に「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催しました。国土交通省においては、平成24年4月に公共交通事故被害者等支援室を設置し、公共交通事故により被害に遭われた方への支援を行っていますが、安全意識の啓発や公共交通事業者による被害者等支援計画の策定をより一層すすめていくため、全国の各運輸局において公共交通事業者や業界団体、一般の方を対象とした「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催しています。このたび、九州で初めて開催し、安全対策や被害者支援についての国の取組の紹介などを行いました。

まず、鉄道安全推進会議の下村会長より、「被害者の立場から望むこと」と題し、平成13年7月に発生した明石歩道橋事故でお子様を亡くされた経験から、「被害者支援を真剣に考えてほしい。」「ある日突然被害者になる。人ごととして考えないでほしい。」「計画が無いと、その時何をすれば良いか分からないはず。事業者自身のためにも支援計画を作ってほしい。」「中長期の支援が大切。」などの講演をいただきました。

続いて、国土交通省総合政策局安心生活政策課の奈良企画官より、「公共交通事故被害者等支援の現状」と題し、公共交通事故被害者等支援の経緯や国土交通省における取組内容などを説明し、各事業者における被害者等支援計画の策定を呼びかけました。

最後に、九州旅客鉄道(株)鉄道事業本部安全創造部の吉岡担当課長より、「安全対策にかかる取組について」と題し、今年度で10年目を迎える取組に至った経緯や、各現場社員からの安全に関する声を拾い上げ、その声をすぐに安全対策に活かす仕組み作り、安全意識を眠らせないために刺激を与え、自分たちの声で安全を創るという意識づくりのための研修制度などの講演をいただきました。

フォーラムには、公共交通事業者をはじめ61名が参加し、参加者からは、「他交通事業者の安全取組について参考になった。」「被害者の視点において支援計画を作成しなければならないと感じた。」などの感想が寄せられました。

今後も九州運輸局では、公共交通事故被害者等支援の取り組みを進めてまいります。フォーラムの様子は、下記URLからご覧頂けます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_2.pdf

(交通政策部 消費者行政・情報課)

◆「福岡モーターショー2015」開催！

～クルマとあけよう 未来の扉～

「クルマとあけよう 未来の扉」をテーマに12月18日から21日まで、マリンメッセ福岡、福岡国際会議場、福岡国際センターを会場として福岡モーターショー2015が開催され、初日の開会式には福岡県知事をはじめ行政機関、各種団体、実行委員会関係者が出席し、当運輸局からは竹田局長他3名が出席しました。

福岡モーターショーでは、モーターファンはもちろん子供や女性、ファミリーにもクルマのすばらしさや楽しさを実感していただく機会とするとともに、クルマが人々のライフスタイルを豊かにしてすばらしい未来を築いていく力があることを世界有数の自動車生産拠点である北部九州から発信することを目的としています。

今回は国内四輪8ブランド【トヨタ・レクサス・ホンダ・ニッサン・ダイハツ・スバル・マツダ・スズキ】、国内二輪3ブランド【ホンダ・スズキ・カワサキ】、輸入四輪11ブランド、輸入二輪9ブランドからコンセプトカーや最新型市販車の出展があり、燃料電池自動車（FCV）試乗会や最新型市販車の合同試乗会もありました。

子ども向けイベントとして、救急車やパトカーをはじめ自衛隊の特殊車両などの「はたらくクルマ」を、間近に見て、触れて、乗れるイベントやモノづくり教室、その他ご当地グルメや輸入車にちなんだ各国のグルメもあり、大人から子どもまで楽しめました。

18日から21日までの4日間の開催でしたが、高校生以下を無料とした今回は、未来のドライバーにクルマのすばらしさ楽しさを実感してもらう良い機会になったのではないのでしょうか。

開会式の模様は次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_3.pdf

（自動車技術安全部 技術課）

◆効果的な安全確保の取組に向けて

～北九州・下関地区運航安全管理研修会などを開催～

九州運輸局福岡運輸支局、若松と下関の2海事事務所は、旅客船及び内航海運事業者等を対象に安全運航の確保や運輸安全マネジメントの適切な実施、向上等を図るため、12月3日に北九州市門司区で「北九州・下関地区運航安全管理研修会」を開催し、54社から主に安全統括管理者や運航管理者など68名の参加がありました。

今回の講習会は、福岡運輸支局 深町首席運輸企画専門官が講師を務め、運輸安全マネジメント体制の充実をテーマとし、事故の未然防止対策に有効なヒヤリ・ハット情報の収集・活用のポイントや問題点、現状の安全管理体制の有効性を検証するための「内部監査」の実施のポイントなど、運輸安全マネジメントを実施する上で、事業者が課題として捉えている点に力点を置き、説明を行いました。

受講生からは「研修内容が分かりやすく、安全教育に活用したい。」「内部監査の有効な進め方が行える可能性を感じた。」との感想が寄せられるなど大いに好評を博し、実りのある講習会となりました。

また、午後からは、関門地区旅客協会主催により、「旅客船乗組員安全運航研修会及び教育訓練」が開催され、船員など27名の出席のもと、講師として運輸安全委員会事務局門司事務所 益永統括地方事故調整官が「旅客船事故防止に向けて（具

体事例、船舶事故ハザードマップ)」、若松海事事務所 川本運航労務監理官が「非常時の旅客の安全確保（避難誘導と救命設備）」をテーマにそれぞれ説明を行った後、接遇に関するDVD「高齢者・障害のあるお客様等への接客」の上映も行い、非常に中身の濃い講習会となりました。

今後も機会を捉え、実践に即した分かりやすい研修の実施など輸送の安全確保に取り組んでいきます。

研修会等の模様は次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_4.pdf

(福岡運輸支局、若松海事事務所、下関海事事務所)

◆海上自衛隊下関基地隊で出前講座を実施！

～内航船員の確保に向けて～

内航船員不足が深刻化するなか、下関海事事務所では、船員確保の取組の一環として、12月15日に山口県下関市にある海上自衛隊下関基地隊において、退職後の再就職先として内航船員に関心を持つ海上自衛隊員を対象に、内航海運業や船員に関する出前講座を実施しました。

自衛隊では、若年定年制や任期制をとっており、多くの自衛官が50歳代半ば、20歳代半ばで退職することとなりますが、その際には再就職を斡旋するなど生活基盤の安定確保が最重要事項とされているところです。

こうした背景のなかで、同基地隊の就職援護室から当事務所に内航船員への再就職について相談があり、かなりの隊員が関心を持っているとの情報を得たことから、出前講座として実施することとなったものです。

当日は、九州運輸局職員が内航海運の仕組みと労働条件・海技資格の制度等の海事関係法規や求職活動等についての説明を行うとともに、九州地区船員対策連絡協議会（事務局：九州地方海運組合連合会）のご協力のもと、地元内航船社から有限会社青崎海運の青崎社長にもご参加をいただき、「プロフェッショナルな内航船員」と題して内航船員の現状をご説明いただきました。

当初の参加予定者は約100名と聞いていたところ、急な業務で当日は33名の参加となりましたが、全員が真剣な面持ちで話に聞き入っていました。

自衛官の中には、内航海運業界の仕組みや船内での生活、組織、労働条件等初めて耳にする方も多かったようで、現在の艦艇内環境とは違う点、また、今後の求職活動など、より具体的な説明を受けたことで、海運業界をグッと身近に感じていただく良い機会となったと思います。

海上自衛隊で得たスキルは、内航船員として活かせる部分もあり、また、労働環境も似通っていることなど、内航船員を確保するうえで大変有望です。当事務所としては、今後も自衛隊基地と連携をとりながら、船員を希望する自衛官に対し、きめ細やかな就職支援等を行うとともに、雇用の開拓や拡大に努めていきたいと思えます。

出前講座の模様は次のURLからどうぞ。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_5.pdf

(下関海事事務所)

◆日本の海を守ります「ポートステートコントロール」
～「膨脹式救命いかだ技術検討会議」を開催しました！～

外国船舶監督官は日本に寄港する外国船舶に対し、船員の資格並びに船舶の構造・設備等が国際条約等に基づく基準に合致しているか検査を行い、不備・不足があれば、それを欠陥として指摘し是正を図らせることをP S C (Port State Control : 外国船に対する寄港国における監督) として日々実施しています。

九州運輸局では、管内におけるP S Cの結果、救命設備に係る欠陥が常に上位にランクされていることから、年度当初に定める基本方針において、救命設備を重点的に検査すべき設備と位置付け、注力して検査を実施しています。従って、外国船舶監督官は救命設備の検査を実施するにあたり、「膨脹式救命いかだ」(※)に関する規則要件、構造及び積み付け方法等に精通しておかなければなりません。

ところで皆さんもご承知のとおり、韓国の大型旅客フェリーのセウォル号は、2014年4月16日韓国珍島沖にて転覆し、前途輝かしき多くの若人等の命と共に沈没しました。海事関係に携わる私どもとしましても、犠牲になった方々に対して深く哀悼の意を表するとともに、二度とこのような海難事故を惹起することがないよう思いを強くしたところですが、マスコミの報道によりますと、緊急時において自動浮揚させるべく船内に備え付けられた「膨脹式救命いかだ」が本船沈没に際し整備不良のため、そのほとんどが起動しなかったとの指摘がなされています。

この「膨脹式救命いかだ」は、乗船者の生命を守る設備であり、いかなるときであっても確実に使用出来るよう、普段から適切な保守点検並びに訓練を行う事が求められています。このため、九州運輸局外国船舶監督官は全国屈指の膨脹式救命いかだ整備認定事業者である株式会社シモセン(山口県下関市)の全面的な協力のもと、全国から外国船舶監督官の参加を得て、「膨脹式救命いかだ技術検討会議」を平成27年12月3日～4日の二日間実施しました。

一日目の座学では、救命いかだの種類や適用される条約の規則要件等について学び、二日目は、「膨脹式救命いかだ」を実際に膨張させ、作動原理や積み付け方法等について、株式会社シモセン救命具整備部の千田部長の懇切丁寧かつ平易な説明を受け大いに学ぶことが出来ました。研修参加者である外国船舶監督官からは、「普段見る機会の少ない膨脹式救命いかだのコンテナ内部の収納状況を確認出来て良かった。」や「個々人の検査能力向上に大きく寄与した。」等の声が寄せられました。

今後とも各種の研修等を通じ、外国船舶監督官の能力の向上を図る事によりP S Cの精度を高め、さらに進化させ、日本に寄港する外国船の安全航行の確保及び海洋環境の保全に寄与したいと考えています。

(※)「膨脹式救命いかだ」は、非常時に手動若しくは自動で膨張するよう設計されており、普段は樽型のコンテナ内に船用品と共に収納され、コンパクトな状態で設置出来るので、限られた船内スペースを有効に使える利点があり、多くの船舶に積み付けられています(URLの写真を参照願います)。

膨脹式救命いかだ技術検討会議の様子はこちらのURLからどうぞ。
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_322_6.pdf
(海上安全環境部 外国船舶監督官)

--- 報道発表 -----

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ -----

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 -----

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より //////////////////////////////////////

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本
メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
